

平成 27 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
一般	10	01	03	0401	生徒会ボランティア活動支援事業	
総合計画	分野	人づくり				
	政策	3-2	学校教育の充実			
	施策	2	豊かな人間性の育成			
目的	市内中学生の社会参画意識を育成するため、生徒会によるボランティア活動を支援する。					
対象	ボランティア活動をする中学生生徒					
意図	社会の一員として、よりよいまちづくりに参画する市民に育つ。					
事業概要	…上記目的を実現するための事業手法を記載すること					
○生徒会ボランティア活動支援 中学校生徒会が企画するボランティア活動への支援 ボランティア活動（学校周辺・公民館等の清掃活動、エコキャップ回収、スノーバスター、環境美化活動等）を行う各中学校生徒会への活動支援						
市民参画の有無 [対象外]						
市民協働の形態		共催 後援・協賛	○ 補助・助成	実行委員会・協議会 委託	事業協力・協定	
活動指標（上記「事業概要」に対応）		単位	区分	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
①	ボランティア活動に取組む生徒会	校	計画	11	11	
			実績	11	11	
②	ボランティア活動数	活動数	計画	15	15	
			実績	26	37	
③			計画			
			実績			
成果指標（上記「意図」に対応）		単位	区分	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
①	ボランティア活動をした生徒の割合	%	目標	100.0	100.0	
			実績	94.0	94.4	
②			目標			
			実績			
③			目標			
			実績			
成果指標の達成度	目標値より高い		概ね目標値どおり	○	目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
○市内すべての中学校において実施するものであり、これまで1校2事業は最低限実施されている実績に基づき活動数を設定した。 ○不登校生徒は存在するものの、全生徒が参加することを目指すべきであると考え、成果指標を設定した。		
目的妥当性	公共関与の妥当性 ○ 妥当である 見直し余地がある 妥当でない	市民参画のまちづくりを進めるためには、中学校段階からの意識を高めることが大切である。
有効性	成果の向上余地 ○ 向上余地がある 向上余地がない	年度を重ねるたびに、前年度の反省を生かした取組が期待できる。
効率性	事業費・人件費の削減余地 事業費の削減余地がある 人件費の削減余地がある ○ どちらも削減余地がない	事業を実施するうえでの最小の経費を見込んでおり、これ以上の削減は困難である。また、人件費は経費に見込んでいない。
公平性	受益と負担の適正化余地 受益機会の見直し余地がある 費用負担の見直し余地がある ○ 適正である	中学生がボランティア活動に取組み、地域へ貢献することは公共性が高く、市が負担することは適正である。
総合評価 …上記評価結果の総括		
○中学生が地域のボランティア活動に取組み、地域の方々と交流したり、活動によって感謝されることは、社会の一員として、よりよいまちづくりに参加する態度を育てるために大変有効であることから、今後ともぜひ継続していきたい。		

平成 27 年度 事業説明資料

【 事後評価 】

担当部署 部名 教育部 課名 小中学校課 担当係長 佐々木 健一 内線 9-30-338

(単位：千円)

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	10	01	03	0401	生徒会ボランティア活動支援事業

単位：千円

		26年度 決算額(A)	27年度 決算額(B)	28年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		600	480		△ 120
財源内訳	国・県				
	地方債				
	その他				
	一般財源	600	480		△ 120

事業期間	単年度繰返	期間限定	[平成 年度 ~ 平成 年度]
------	-------	------	-----------------

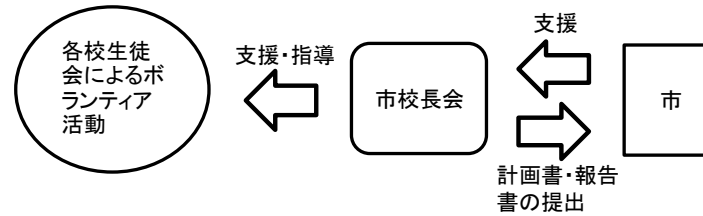
部経営方針における目標
夢と希望をもち、たくましく生きぬく子ども達を育む学校教育の充実

事業開始の背景・経緯
中学生議会において各学校生徒会が行うボランティア活動への支援について要望があり、生徒の自主性と社会参画を育成することから、平成22年度よりこの事業を開始した。

事業概要
○生徒会ボランティア活動支援
中学校生徒会が企画するボランティア活動への支援
ボランティア活動（学校周辺・公民館等の清掃活動、エコキャップ回収、スノーバスター、環境美化活動等）を行う各中学校生徒会への活動支援

事業を展開する上での課題、留意事項 / 意見・要望等
○生徒達の自由なアイデア及び自主性を尊重しつつ、生徒自身がやれる範囲での活動を支援する。
○学校からは、「この事業により、活発なボランティア活動を行うことが出来、より多くの生徒たちにボランティア活動を体験させることができた」と評価されている。

《事業手法の詳細》



生徒会ボランティア事業交付金 480千円

H27年度（実施予定）の主な活動内容等

- エコキャップ回収ボランティア 2 校
- 除雪ボランティア（学校周辺、公民館、高齢者住宅等） 5 校
- 清掃ボランティア（高齢者住宅、公民館等） 10 校
- 募金ボランティア 2 校
- 交流ボランティア（福祉施設、地区の高齢者、地区行事等） 5 校
- 花壇整備ボランティア（花苗植樹、水やり） 5 校
- 被災地支援ボランティア（広葉樹の植樹、被災地での清掃活動） 3 校

事業費の主な充当先

- 作業に使用する備品の購入（スノーダンプ、一輪車、プランター等）
- 消耗品の購入（洗剤、ゴミ袋、手袋、スポンジ等）
- 通信費（郵便料、宅配料金等）